

9月議会

根本みはる市議の
一般質問その①

交通結節点としての
豊田市駅と駅前整備

9月4日、日本共産党の根本みはる市議は、9月市議会的一般質問に立ちました。その1部を紹介します。

都心環境計画に基づく整備事業として、豊田市駅西口施設の整備、東口駅前広場設置事業の計画が進められています。計画段階である豊田市駅東口駅前広場設置事業は、イメージ図の具体化の検討においては、市民の理解が得られるシミュレーションの構築および情報公開が必要です。

○市駅西口バス乗降場への集約化による市駅周辺商業施設、中央図書館、コンサ

ートホールが入った参合館、ギャザ、コモスクエアなどの利用者への影響と対応策

豊田市駅東口の商業・公共施設等から西口集約化後のバス乗降場を利用する場合、現況の東口バス乗降場よりもアクセス距離が長くなり、バス利用者の利便性が低下することが考えられる。

・令和4年に実施した2回の交通実証実験におけるアンケート調査でも、バス利用者が東口の商業・公共施設等を利用している状況を把握している。

・「東口駅前広場周辺」に新規にバス停を設置する計画であり、東口を含めた豊田市駅周辺

の商業・公共施設等の利用者が、これまで以上に、バスを利用しやすい環境を整備する。

○駅西口バス乗降場への集約化によるバス利用者への影響と対応策

A・バス乗降場を豊田市駅西口に集約することにより、現況と比べて、西口に発着するバス本数が約2倍となり、歩行空間では、バス利用者と歩行者・自転車等の通行者が錯綜することが考えられる。

・対応策として、歩行空間の昇降施設を集約し、バス利用者の待合スペースを拡張するとともに、分かりやすいバス案内表示やバス待機列の路面標示、歩行者動線のバリアフリー化などを図り、安全・安心で円滑にバス利用ができる環境を整備していく。

【意見】西口バス乗降場から発着するバスの本数が増え、限られた空間にバス利用者が集まり、歩行者・自転車も通行します。朝夕の混雑時には、現在でも長い行列が狭いスペースに並び、安全と言えるでしょうか。

○豊田市駅東口駅前広場のスケジュールと予算を含めた進捗は。

A豊田市駅東口駅前広場の整備については、令和8年に開催されるアジア競技大会までに「交通広場部分」の整備完了・供用開始を目指し、工事を進めており、「まちなか広場」を含めた全体整備は、令和11年度末の完了を目指している。

・予算については、現在「まちなか広場」の設計を進めているところであり、現時点では全体を把握できていないが、まちなか広場の工事に着手予定の令和8年頃を目途に、全体整備内容を取りまとめいく予定。

【意見】予算、全体像を市民のみなさんに示し、意見を反映すべき。

○豊田市駅前に設置するバス停の位置は。

A令和4年に実施した2回の交通実証実験におけるバ

ス停の利用状況に加え、バス利用者のアンケート結果等を踏まえた対応として、「東口駅前広場周辺」にバス停を設置する方針で、関係機関である愛知県公安委員会やバス事業者と具体的な協議を進める。

○豊田市駅東口駅前広場設置によるバス利用者への影響と意見の把握

A豊田市駅東口駅前広場は、「東口駅前広場周辺」に設置予定のバス停の利用者が、豊田市駅を利用する場合の歩行者動線となるため、「まちなか広場」の利用者と錯綜しないように広場機能を配置するなど、安全・安心で円滑に移動できる歩行空間を確保する。

【意見】バス利用者は、駅に近い場所を望んでいますので、意見を十分に把握して、反映させていきたい。

○交通結節点としての本市の駅前整備の考え

A都心環境計画では、豊田市駅周辺を本市の玄関口として、新たな交通拠点を形成することを目指し、整備コンセプトである「超高齢社会に適応した交通結節機能の強化」を進めていく。

子どもたちに平和な未来を！ 武力で平和はつくれない

第36回 豊田市平和を願う戦争展を開催

今年も恒例の平和を願う戦争展を8月24、25日の2日間にわたって、豊田産業文化センターで開催しました。

2年半も続くロシアとウクライナの戦争に加えて、昨年10月からのイスラエルのガザへの空爆による悲惨な状況が日々伝えられる中での開催となりました。国内でも岸田内閣が5年間で43兆円にも上る軍事費を意図して軍備を拡大するという方針を打ち出したこともあり、市民社会にも、戦争への漠然とした危機



感、不安感が広がっているのでしょう。いつもの年よりも、長く会場にとどまって、熱心に展示を見入る人が多かったような気がします。

2日間、催し企画への参加もあわせて、来場者は延べ600人でした。

会場の産業文化センターに他の目的で来館したら、たまたまこの戦争展をやっていたので入ってみたという、初めての参加者も大勢おられ、その方々が、アンケートに「非常に良かった。」「見れてよかった。」「戦争は絶対にしてはいけないと思った。」「書いてくださって良かった。」「あらためて開催の意義を感じました。」

私たちの街にも戦争があった。地元、豊田での戦争時の出来事についての展示は、今年も関心が多い展示でした。

終戦の年1945年の1月13日に、2306人もの死者が出た三河地震と呼ばれる大地震があり、この豊田でも高岡地域で亡くなった人がいたということや、終戦の前日8月1

4日にトヨタの工場など市内3か所に模擬原爆パンプキン爆弾が投下されたこと、今の浄水駅付近の伊保原に特攻隊の訓練飛行場があったことなどは、初めて知った人たちに大変な驚きだったようです。

核兵器のない世界をめざして

ヒロシマとナガサキの被爆の実相を伝える「原爆と人間」の写真パネルと、広島の高校生が被爆者から聞いたことを絵に描いた作品の展示は、核兵器の存在の非人道性を強く訴え、記憶の継承という面からも心打つものでした。

このテーマの催し企画としては、朗読劇「この子たちの夏」の上演とアニメ映画「つるにのつて」の上映を行いました。

戦時の品々、書籍など

実際に戦争に赴いた方が持ち帰った水筒や、墨塗りの教科書などが注目を集めていました。

の今

沖縄を再び戦場にしない、沖縄いま、沖縄の南西諸島には、次々に自衛隊の基地ができ、弾薬庫やミサイルが配備され、ま

さに軍事要塞化しています。この現状について展示し、特別催しとして、沖縄戦のことを描いた「島守りの塔」という映画を上映しました。同時に沖縄諸島の現状についてのミニ講演会を開き、好評でした。

映画は、あの沖縄戦が、いかに一般住民を残酷に犠牲にしたかがよくわかり、講演と併せて、このまま軍備がすすめば、80年前と同じことがまた沖縄で起こりうる、沖縄が再び戦場になるかもしれないという危機感を強く感じさせるものでした。こんなことを許しておいては沖縄の人たちに申し訳ない！

戦争体験を聞く会では長崎の原爆で親戚の多くを失った方のお話を聴きました。

紙芝居や絵本の読み聞かせも参加者が多く、好評でした。今年も多く市民とともに戦争の悲劇を見つめなおし、平和への決意を新たにしたい機会を提供できたと思います。

協賛金をお寄せくださった皆様をはじめ、多くの方たちの有形無形のご協力、ご支援のおかげで、この「豊田市平和を願う戦争展」という、草

の根の平和運動が継続できています。あらためて、皆様から感謝し、深くお礼申し上げます。

第36回豊田市平和を願う戦争展
実行委員会

- ◆法律相談は弁護士が第2土曜日
午前10時～12時で
- ◆生活相談は随時、根本議員が対応。
- ◆法律相談は要予約。お申込みは
日本共産党西三河地区委員会まで。
電話 0564-23-2785
- ◆生活相談は市委員会まで。
電話 0565-34-4772

無料

法律・生活相談
おこなっています



すやま初美
党中央委員



もとむら伸子
衆議院議員